

平成 27 年 12 月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	平成 27 年 12 月 24 日(木) 午後 1 時 30 分		
場 所	市庁本館 3 階 議会第一委員会室		
教育委員職氏名	教育委員長	大 庭	文 武
	教育委員長職務代行者	武 輪	節 子
	教育委員	築 瀬	眞知雄
	教育委員	油 川	育 子
	教育長	伊 藤	博 章
事務局員職氏名	教育部長	佐 藤	浩 志
	教育部次長兼教育総務課長	野 田	祐 子
	図書館長	藤 田	俊 雄
	学校教育課長	小笠原	徹
	教育指導課長	木 村	一 夫
	社会教育課長	田 中	勉
	是川縄文館副館長	清 川	定 吉
	総合教育センター所長	原	寿
	博物館副館長	古 里	淳
	教育総務課参事	尾 崎	雅 祥
	学校教育課参事	茨 島	隆
	是川縄文館参事	宇 部	則 保
	是川縄文館参事	村 木	淳
	東地区給食センター所長	中 里	親 弘
	北地区給食センター所長	外 館	一 良
	西地区給食センター所長	清 川	彦 一

開 会

(大庭教育委員長)

定刻となりましたので、平成27年12月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、武輪委員さんを指定します。

それでは教育長から、主な会議・行事等について、説明をお願いします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

平成27年12月八戸市議会定例会一般質問について

(築瀬教育委員)

意見とか質問ということではないのですけれども、感想というか、いつもこういう話題が出るたびに思うことです。12ページの部活動指導者引率についてというところのやりとりです。いつもこういうところが話題になって、少しずつ前進しているということは良いことだと思っています。ここでは中学校の大会出場に関しての引率要件緩和ということが主な話題でした。それもスケート競技におけるということがあったようです。ただほかの部でも同様の課題を抱えているということがほかにもありまして、デーリー東北新聞のシリーズの部活の今というものでは、具体的に体操競技を取り上げて、実情と課題が述べられていました。そこには岩手県の代理引率ができるという事例を挙げてありました。そういった資料等も載って、だいたい一般市民、学校教員も含めて一般市民の関心というものも深まってきているのではないかと思います。このようにここで取り上げているのは少数の個人競技が主なのですが、実は団体競技においてはさらに深刻な問題があって、教員不足とか生徒数の減少により、小学校でやっていた運動部が中学校にないということで続けられない。そういうこともあるわけで、今回の質疑応答の中で少数の個人競技について各学校での配慮から中体連大会に出場できたり、いろんなことが行われているということであり、引率要件の緩和ということが実現できていくということは、大変喜ばしいことだと思います。個々の質疑応答の中にもあるのですが、子どもたちのニーズに応えたいという思いとか、そういうものがありますし、市教委で当該学校の中学校へ進んだときに、やりたい運動部がない場合には隣接の中学校の運動部を目指して、学区外通学が許可できるという試みも行われているわけです。ただ私、最後に少し感想を含めて言いたいのは、そのようなことも一部の学校の部活動強化のためとか、一部競技の競技力向上のためだけではなくて、その子どもたちの自己実現をさせたいという教育的配慮から行っているということもいつも考えなければならぬと、こういう話題が出るたびに思っています。もっと極端にいうと要件緩和はいいのですが、忘れてならないのはやはり小中学校における部活動は教育課程の外ではあるけれども、大切な教育活動だということ、この観点を見失わないようにしたいものだと思います。各競技の普及とか、競技力向上という面もおろそかにできないのですけれども、何よりも子どもたちの心身共に健全な発達を遂げさせたいとか、仲間や先生との絆を深めたり、友達関係を学ぶなど、人間的な成長を促したいといった教育的な意義といったものを見失ってはいけないということも、いつも肝に銘じながらやらなければならないと思っています。簡単にいえば単に大会に出場したいとか、その競技の力を上げたい、良い成績を取

りたいということだけではなくて、やはり義務教育においては教育的な意義というものをしっかりと持って、引率要件だけではなくて、部活動に関しては臨んでいく必要があるのではないかと考えて、感想を含めて、今までのことに関しては述べてきましたけれども、そういった教育的な観点を絶対に忘れてはならないと思っているところです。感想です。

(大庭教育委員長)

いま部活動引率に関わる部分での、基本的なところを見落とさないようにとのご指摘がありました。あとはよろしいでしょうか。

先ほど築瀬委員からもありましたけれども、私もこの部活動の引率緩和のところについては、まだこれはいつの話になるのかわかりませんが、中教審の中ではチーム学校というイメージの中で、いわゆる部活指導員なるものを法的に学校職員として位置付けて、外部から招き入れる、そのような構想もあるようです。私が考えるには、ある先生がその学校にいなくなったら、その部活動が続けられなくなった、できなくなったとか、そのようなことがない状況。やはり子どもたちも自分でやりたい種目をきちんと継続していけるような、そのような体制をとるためにはいろいろ課題があるのでしょうけれども、そういう外部講師、これをうまく学校内で位置付けて、そして子どもたちは継続してその種目に取り組んでいけるということも、考えていい時期にきているのかという印象は持っております。

八戸市立南郷小学校の校歌及び校章について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

(武輪教育委員)

質問ではなく、感想を述べさせていただきたいと思います。まず校歌についてですが、うちでピアノで弾いて、自分で歌ってみました。とても優しいメロディで、非常に馴染みやすいと思いますか、覚えやすいと思いました。この歌詞も本当にこの南郷という土地の特色を生かした素敵な詩を作っていただいて、とても良い校歌だと感じております。また校章につきましても、最初に見た印象としては、この南という字が私には大変強く入ってきましたので、私自身南郷ということではなく、南という意味では白銀南小学校とか、南中学校、何かの応援をするときに、白銀南小学校であったり、白銀南中学校は南という声の掛け方をするので、南というところごく白銀地区の学校を思い浮かべたのです。そこで白銀南小学校とか、南中学校の校章を確認したら、そこには南という字が使われていないということがわかりましたので、この南は南郷の南、南の郷、南郷ということを表しているのだということ強く思いました。またこの蕎麦の実というものが、ここに使われていることも非常に南郷の特色を表しています。その蕎麦の実というものが、こういう形でデザインされたということもとても素敵だと思いました。紫も使われて、赤と紫で高貴な感じもしますし、すてきな校章も作っていただいて、とても良かったと思っております。いま小笠原課長からお話がありましたけれども、26日は私の歌ではなく合唱で皆さんに公表していただけるということで。

(教育指導課三角副参事兼実践支援グループリーダー)

口をはさんでしまって。合唱は合唱で別で、これは展示とか、CDのほうで。

(武輪教育委員)

CDのほうですか。失礼しました。校歌が聞けるということで、楽しみにしております。以上です。

(大庭教育委員長)

はい、ありがとうございます。歌詞だけは見えても、メロディのイメージは全くなかったのですが、今ので少しなるほどとお聞きしました。あとよろしいでしょうか。

(築瀬教育委員)

せっかくなので。この校歌についてはやはり、いま武輪委員が話されたように南郷に対する愛情がじんわりと伝わってくるような、そんな校歌だと思っています。

それから市野沢小学校、鳩田小学校、中野小学校の校歌も式典などで聞いたり、見たりしているのですが、その3校の校歌にある歌詞の一部は必ず入っているという部分とか、さらにその面影を残しながら前に進もうという、そういう前向きな気持ちを感じられてとても明るくて元気が出る。住民にとっても、子どもたちにとっても元気が出るということは大事なことだと思って、とてもその点では良いと思っています。ある意味で統合新設ということは、寂しく悲しい出来事なわけで、それを少しでも和らげるような校歌ができてきたということは、とても嬉しいことだと思っています。

あと校章についても先ほどから述べられていますが、新しさと明るさ、力強さもありますし、何よりもワークショップを重ねたということは大事なことだ。そこに子どもたちとか、地域住民の思いというものが入っていると思います。やはりこの3校の校章も式典などに参加して見ているのですが、やはり3校の校章のイメージを取り入れているのです。ですから、そういった点も非常に配慮されていると思います。このひまわりの部分というものは、手書きをしたときには少し難しいかと思いました。そういった意味では3校の思いというものが、非常によく込められた校歌、校章だと思って感謝したいと思います。これからも4月に向けていろいろご苦労あると思うのですが、こういったことも明るい話題として取り上げながら、前向きに進んでくださるようお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(大庭教育委員長)

いろいろ解説していただいて、ありがとうございます。統合された3校の子どもたちがこの校歌及び校章で、また1つの刺激になって、新たにまた踏み出していただければと思っています。良いシンボルになっていただければと思います。

マイブック推進事業のアンケート結果について

(木村教育指導課長 資料に基づき説明)

(築瀬教育委員)

質問というよりは感想ですけれども、このマイブック推進事業について私は毎回話題に出るたびに取り

上げて話をしていました。大事だと思っているからです。今回の数字、数字というものはそのときそのときの条件で変わりますので、数字ばかりで評価はできないのですけれども、先ほど課長からあったように、使用率というものが大幅に高まっている。こういうことはとても良いことで、関心の高さを表していると思います。特に私が感じたのは、先ほど課長からもあったのですが、2ページのところで学校アンケートの質問1、2のところ。課長が昨年度の数値をお話しなかったのを少し上げてみると、質問1のイのところの職員朝会で実施要項を活用したということは、去年は統計上ゼロだったのです。今年は83パーセントと、これは学校の受け取り方も、去年は1年目だったのでさまざまあったと思うのです。それにしても、ほとんどの学校が職員朝会で実施要項を活用しているということは、やはり学校の取り組みの強さを表していると思って見ていました。

それから質問2のAで、先ほども話がありましたさまざまな便りで何度も出している学校というものが、昨年49パーセントだったのですが、今回は94パーセント、ほとんどの学校がやっている。やはり繰り返しやっているということの効果が出て、先ほどの使用率の高さにつながっているのではないかと考えています。

それから特筆したいと思ったのは、3ページの質問5のところでも、やはり先ほどの課長の読書の広がりという証拠がここにも出ている。昨年度Aの部分の部分が確か37パーセントだったのです。今回は82パーセント、大幅にここが上昇しているということ。イのところも51パーセントから86パーセントというように、その読書の広がりというものが確実に示していると思って、とても良いことだと思って見ていました。

この結果というものは事務局で昨年度の反省から、今年初年度当初6月に6点の改善案を新たに出してくれました。それがやはり功を奏していると思います。特に児童用の説明資料を作成して、子どもたちの興味を引いたということとか、各学校への事業の周知の徹底を図りたいということをお話されていましたので、そういったことが実を結んできていると思っています。マイブック推進事業の目的は何かというと、言うまでもないのですが、読書に親しむ環境づくりです。その環境づくりが着実に積み重ねられていると思って期待している。これからも期待しているところです。

最後に先ほどの議会の質問の中にも、要するに幼児への事業の拡大などはどうなのかということとか、ブックスタート事業との関連という質疑応答がありましたけれども、そういった点も含めてさらに改善、工夫をしながら、さらに意義のある取り組みにしてほしいと思って、このアンケートの結果を喜んで見ていました。これからも頑張りたいと思っています。ありがとうございます。

(油川教育委員)

はい、ありがとうございます。学校アンケートからのところですか。質問4のところマイブックコーナーで購入した本をどのように活用したかに対しまして、全校一斉読書で活用したとか、国語の時間に紹介したとか、またはエのところの紹介カードを児童に書かせて掲示したとか、その他の中で2つ目のところで図書委員が全校朝会で自分が買った本を紹介したとか、ビブリオバトルを実施したなど、とても良い活用をしていらっしゃると思います。どのような活用をしたのかという情報交換をするような機会とか、場というものは学校間の中ではあるのでしょうか。

(木村教育指導課長)

冬休み期間中に各学校の図書館担当者による連絡協議会がありますので、その場でまた情報提供する予

定です。

(油川教育委員)

そうですか。はい、ありがとうございます。そうすると前年度そういう情報交換したことを元にまた今年度生かされて、1冊の本がものすごく充実したものになったかと思しますので、どうもありがとうございました。以上です。

(武輪教育委員)

今年もこのようにアンケートをとっていただいて、丁寧にこの結果を分析して、集計していただきまして、本当にありがとうございます。私も昨年のアンケート結果と比較しながら数値の面であったり、いろいろ一つ一つの項目について見ていきました。課題というか、反省点もはっきり見えていますので、また来年度に向けて良い取り組みができるのではないかと考えております。

数字は細かいのですが、一つ気になったのは、いま木村課長から1枚もクーポンを使用していない児童数が3.2パーセント、374名ということでした。質問1のマイブッククーポンを使用した月という形で出ていますが、使用していない2パーセントとあります。この2パーセントということと、1枚も使用していないことでの3.2パーセントというものは、どのように捉えたらいいのでしょうか。

(木村教育指導課長)

上のほうにある数値は保護者の回答です。そして我々がつかんだ3.2というものは、実際に書店から使ったクーポンを集めての回答です。

あとこの質問1の保護者のところには特別支援学校が含まれていませんので、その分が少し上乘せされて3.2パーセントになっていると思います。以上です。

(武輪教育委員)

ありがとうございました。質問4のところの推進事業の継続についてというところでも、継続してほしいというパーセンテージが98.2パーセントです。やはり皆さん保護者も、子どもたちも、とてもこの事業に対しては良いことだと感じていると思いますので、来年度またさらに良い形で進めばいいと思っています。

(大庭教育委員長)

はい、ありがとうございました。私もこのマイブック推進事業については関心を持って見ていまして、是非良い事業になってほしいという思いで見えてまいりました。少し築瀬委員とも重なるのですが、やはり学校での取り組み、趣旨が浸透しまして、学校での取り組みが徹底されてきたといえますか、その辺が使用率の上昇ということにも重なっているのかと思います。

それから保護者とか、書店等の反応でもかなり効果があるという捉え方をされているのかと思っています。その中で3ページのところです。課長の報告の中にもあったのですが、参加書店アンケートからの質問の4番、保護者に使用方法が伝わっていない。あるいは使用期間間に使用する場合、特に使い方や趣旨が徹底されていない。それから質問6のところ。アとかイのところ、これについて

は今後も周知徹底を図るということでしたので、この辺はまだ結構徹底が不十分なところかと思います。いくらされても、やはりこのようなことは出てくるかと思うのですけれども、今後もそのようなところに留意されて、進めていただければと思います。どうもありがとうございました。

白山台公民館における旭化成建材による杭工事について

(田中社会教育課長 資料に基づき説明)

その他 (第2回教育の広場はちのへとインターネットトラブル防止に向けた3つの提言について)

(齋藤教育部次長 説明)

(大庭教育委員長)

教育の広場は昨年1回目、それを参考にしているところを改善して、今回2回目を迎えるということです。私も楽しみで、参加したいと思っています。できるだけ市民の方、それから実際の小学生、中学生にも来て、見ていただければ嬉しいと思っています。

あとインターネットのトラブル防止ということについては、これが一つの足掛かりになって、保護者と生徒、子どもたちが家庭内で話し合う、ルール作りをする。それがいい状態になってしまうとトラブルになってしまうので、ここでのルール作りとか、あるいは関連したフィルタリング等を設定するとか、その辺のところを保護者と子どもで話し合う、その一つのきっかけになってくれればと思います。さらには先ほど説明の中にあつた生徒会を中心にして子どもたち同士が話し合う、認識を深めることは大事なことでありますので、そういう手掛かりにもなってくれればと思います。ありがとうございました。

その他 (中国蘭州市への教員派遣事業の概要について)

(木村教育指導課長 説明)

(大庭教育委員長)

是非このような教員の交流も進めていただきたいと思います。特に今回はチベット族専用の小学校等まで訪問させてくれたということは、少し意外でしたけれども、割と抱え込んでしまうところがあるかと、かつて行った印象で思っていました。他の地区まで見せてくれるということは、本当にありがたいと思います。良かったと思います。

閉 会

(大庭教育委員長)

これもちまして平成27年12月教育委員会定例会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。良い

新年をお迎えください。

(午後2時33分閉会)